

2025 年 8 月 20 日(水) ハコラク 9 月号 掲載

ドクターコラム『甲状腺眼症』

眼科 相原 佑亮 科長

Doctor
Column

眼 科

甲状腺眼症

甲状腺は、喉ぼとけの下にあり、新陳代謝や自律神経のコントロールに必要な甲状腺ホルモンを分泌している臓器です。免疫の異常によって、甲状腺ホルモンが過剰に分泌されて動悸、体重減少、指の震え、暑がり、多汗などの症状が生じる病気をバセドウ病、逆に甲状腺組織が徐々に破壊されて甲状腺ホルモンが作られにくくなっていく病気を橋本病といいます。こういった甲状腺の病気に伴って目の症状が生じるものを甲状腺眼症といいます。

甲状腺眼症では、上まぶたが腫れぼったくなってきたり目が飛び出してきたり、眼球運動障害といって、目が上を向かない、内側に向かないなどの症状が生じます。甲状腺は、喉ぼとけの下にあり、新陳代謝や自律神経のコントロールに必要な甲状腺ホルモンを分泌している臓器です。免疫の異常によって、甲状腺ホルモンが過剰に分泌されて動悸、体重減少、指の震え、暑がり、多汗などの症状が生じる病気をバセドウ病、逆に甲状腺組織が徐々に破壊されて甲状腺ホルモンが作られにくくなっていく病気を橋本病といいます。こういった甲状腺の病気に伴って目の症状が生じるものを甲状腺眼症といいます。

甲状腺眼症は、適切な治療を行っても発症前の状態まで戻るのが難しいことも多い病気です。気になる症状がありましたら、早めの眼科受診をしてください。



函館中央病院

眼科

ゆうすけ

相原 佑亮 科長

略歴

平成27年、慶應義塾大学医学部卒業後、北見赤十字病院、北海道大学病院、帯広協会病院勤務を経て、令和5年函館中央病院、眼科科長に就任した。日本眼科学会眼科専門医。